

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Rhetoric at Work : A Discursive Approach to the Rhetorical Notion of Allegory

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2021-05-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: HIRAKAWA, Yuki メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2550

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査の要旨

本研究は、談話分析的アプローチを用いた諷諭（アレゴリー；allegory）に関するレトリックの研究論文である。

諷諭は、寓意小説（allegorical fiction）、寓話（fable）、（聖書の）たとえ話（parable）、そしてことわざ（proverb）など、いくつかのディスコース・ジャンルにまたがる概念であるが、伝統的なレトリック研究は スイフトの『ガリバー旅行記』（*Gulliver's Tale*）やオーウェルの『動物農場』（*Animal Farm*）のように現実世界の出来事に暗示的に言及する寓意小説をその典型であるとしてきた。しかし、上記のジャンルを互いに関連づけて体系的に統合する研究はなく、それぞれのジャンルについて個別に考察が行われることがほとんどであった。その結果、諷諭は雑多なジャンルの集合であるかのような印象すらもたれていた。

これに対し本研究は、これまでレトリック研究において等閑視されてきた会話的な諷諭——会話における論証や説得を行うためのたとえ（allegorical argumentation）——を議論の中心に据え、この会話的諷諭がどのようにディスコースにおいて組み立てられていくのかを明らかにしたうえで、上述のことわざ、聖書のたとえ話、寓話、そして寓意小説との関係性を明らかにする。このように本研究は諷諭の体系を捉えるはじめての本格的な研究である。論文の構成は以下の通り。

1. Introduction
2. Revealing Allegory: An Overview
3. Drawing an Analogy in Conversation: Allegorical Argumentation
4. Citing a Conventional Wisdom: Proverbs
5. Narrating a Story to Teach: Parables
6. Exemplifying a Moral Lesson with a Narrative: Fables
7. Conclusion

1章で議論の端緒を開いたあと、2章の "Revealing Allegory" が論文全体の基調を提示する。会話的なたとえの用例から、ことわざ、聖書のたとえ話、寓話、そして寓意小説へと概観し、そこで行われているアナロジーを用いた事態の把握方法の共通性を指摘したうえで、以下の3つの観点から各ジャンルの特徴をあぶり出す。3つの観点とは、i) 聞き手との交渉を積極的に行うのか（interactive）それとも語り（narrative）の形式を利用し間接的に聞き手とやり取りをおこなうのか、ii) たとえと本題との関係を明示しながら談話を進めるのか否か、そして iii) たとえを導入することで聞き手の説得に重きを置く（argumentative）のか、それともアナロジー的な事態把握を聞き手に求める（interpretive）のか、の3つである。

その結果を図式化したものが Figure 1 である。会話的なたとえ（allegorical argumentation）を右端に、そしてそれまで諷諭の典型とされてきた寓意小説をその対極に置いて諷諭を俯瞰する。このようなかたちで諷諭の全体像を統一的に捉えられたのは、これまで見過ごされてきた会話的なたとえの存在を見出し、これを視野の中心においたうえで各ジャンルとの共通性と相違点を探ることができたからだろう。これまで埋もれていた言語事実の発見があったことと諷諭を体系的に捉え直せた点において、本論文は高く評価できる。

